



幸せの価値観

みなさんは「ケレケレ」という言葉をご存知でしょうか？これは、南太平洋の島国「フィジー」の言葉で、日本語にすると「分け合うこと、共有すること」と訳され、現地では「お願い」や「ください」といった意味で使われています。フィジーの人たちには「自分のものはみんなのもの、みんなのものは自分のもの」という感覚が根付いており、ケレケレと言ってさまざまなものを分け合い、助け合いながら生活しているそうです。その対象は、衣服や食べ物、お金や子育てまで多岐にわたり、フィジーを訪れた多くの日本人はケレケレの文化に驚くようです。

このことを教えてくれた林一平さんは、JICA (国際協力機構) 青年海外協力隊員として2年間フィジーに滞在し、国際協力に取り組みました。日本とは大きく異なるフィジーの文化に面白さを感じ、フィジーのように互いに支え合えば、「気持ちを楽に、ゆとりある生活が

できるのでは」と思ったそうです。

フィジーは決して経済的に恵まれた国とはいえませんが、アメリカの世論調査会社の世界幸福度調査で1位を3度も獲得するほど、幸福度の高い国です。たとえ困ったとしても頼れる人、助けてくれる人が身近にいるという安心感、誰かの役に立っているという支える側の自己有用感が幸せを感じる一因になっているのかもしれない。

私はどちらかと言うと「他人に迷惑を掛けてはだめだ」という意識が強く、なるべく自分の力で解決しようとして無理をすることがあります。一方、パートナーは近所のママ友に子どもを預けたり、逆に預かったりと、助け合いながら生活しています。私も「ケレケレ」の精神を上手に取り入れてみようと思います。



イチイガシの切り株



ムクノキ (中央の巨木)



境内には、同じく県指定文化財のイチイガシの巨木がありました。平成13年に自然倒木してしまいましたが、現在はその巨大な切り株から、往時の姿をしのぶことができます。江戸時代に三宝荒神を勧請(神仏の分霊を他の地に移して祭ること)したと伝わる鹿野町の荒神社。その境内は「荒神の森」とも呼ばれ、そこにひときわ高くそびえ立つムクノキです。樹高26m、幹周り6.5m、枝張り南北約16m、東西約13mの巨木で推定樹齢は650年と考えられ、兵庫県内で第4位の幹周りとなります。平成16年に兵庫県指定文化財(天然記念物)に指定されており、地域のシンボルとして大切に守られています。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

▼問合せ 郷土資料館 (☎23-5992)

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー



肥育には地元でできた酒かすも活用

「食欲の秋」とともに、さまざまな催しが復活し始めました。先月は、西脇多可料飲道の駅で「うまいもん市」が開催されました。コロナ感染症のこともあり、人出を気にしておりましたが、お弁当などテイクアウトメニューは早々に完売。せっかく来られた方の期待を裏切るほどのにぎわいぶりでした。西脇市には、イチゴや牛肉、日本酒などたくさんのおいしいものがあります。

西脇のうまいもんに期待!



西脇市長 片山象三

その中で、このたび西脇市に酒蔵を建設し、米作りから酒造りをされている萬乗醸造さんと肥育農家である川岸牧場さんとが連携。酒造りの過程でできる「酒かす」を牛のえさとして与える取り組みが実現しました。酒かすは大変栄養価が高く、アルコールの成分が牛の食欲増進、肉質の向上に好影響を与えると同時に、酒かすをエコフィードとして有効活用することは、今まさに西脇市が進めているSDGsの取り組みとなります。もともとは、萬乗醸造さんの山田錦のみ殻を牛舎に利用されていたことから縁と。SDGsは思わぬ「連携」で生まれています。地元でできた酒かすで育てられた和牛が「とってもおいしい特別な神戸ビーフ」としてたくさんの方に評価されることを大いに期待しています。「おいしいまち」「元気なまち西脇市」をともに創ってまいります。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

北部と南部の魅力を生かしたまちへ

重春まちづくり協議会の取り組み

重春まちづくり協議会では、重春地区の北部、南部それぞれの魅力を生かし、事業に取り組んでいます。

北部は都市化が進む地域である一方、豊かな自然も残っており、その象徴である矢筈山では、登山道整備に取り組んでいます=写真左。矢筈山から眼下に広がる西脇市街地は絶景。雲海のスポットとしても知られています。

南部は農地が広がる自然豊かな地域で、コスモス畑の整備などの美しい景観づくりや、自然の恵みを体感できる収穫体験を行っています。また、長明寺では、平安時代の武将で歌人としても知られる源頼政公をしのんで、毎年4月に頼政祭を行っています=同右。



西脇の自然 583

マイコアカネ

とんぼ科



成熟した雄の顔が青白くなり、それが化粧をした舞妓さんのように見えることから、「舞妓茜」という名前がつけました。アキアカネなどと同じ赤トンボの仲間、市内では放棄水田や植生の豊かな池の周辺に生息します。赤トンボの仲間は市内で13種確認されており、いずれも池や田んぼの周辺にいますが、私たちが普段目にするのは、ほんの数種です。

「赤とんぼ」という童謡もあり、赤トンボはほとんどの方が知っているトンボだと思いますが、近年、その代表格のアキアカネが急激に数を減らしています。「最近、赤トンボおらへんなあ」とならず、身近な昆虫でいてほしいです。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】

9月号の「市長からの手紙」(19頁)で、各種証明書のコンビニ交付の時間帯を「24時間」と書きましたが、正しくは「午前6時30分～午後11時」でした。おわびして訂正します。